

現代日本論購読 I 2001.5.9 (田中 重人)

前回課題解答例

(文献表の作成)

解答例

Toru Kikkawa + Makoto Todoroki (1998) 「School education and democratization of social consciousness in postwar Japan」『International journal of sociology』28 (1): 92–108。

メアリー・プリントン (1998) 「事務職の拡大」『日本労働研究雑誌』453: 36–49。

山岡 政紀 (2000) 「関係動詞の語彙と文法的特徴：照合行為の介在をめぐって」『日本語科学』8: 29–53。

Amy B. M. Tsui + John Fullilove (1998) 「Bottom-up or top-down processing as a discriminator of L2 listening performance」『Applied linguistics』19 (4): 432–451。

佐藤 忠男 (1996) 「映画のなかの日本とアジア」『岩波講座 現代社会学 第23巻 日本文化の社会学』岩波書店、p. 143–166。

Larry Wall + Tom Christiansen + Randal L. Schwartz (1996) 『Programming Perl』(second edition) O'Reilly & Associates。

解答のプロセス

まず雑誌か単行本かを区別する。雑誌の要件はふたつ：

- 定期的に刊行される
- 終わりが予定されていない

両方に当てはまるものが「雑誌」、それ以外は単行本である。

雑誌の場合

- 雑誌の名前(表題)がどれかをみきわめる。ほとんどの雑誌は名前だけで特定できるので、出版社などの情報は不要。(ただし例外もあるので、本当は図書館の検索システムなどで確認する。)
- 巻・号と出版年を特定する。
- 当該論文の著者と論文表題を特定する

著書の場合

- 著者(编者)、表題、出版社、出版年、版表示を特定する。
- 本のなかの1章などだけをのせる場合は、その部分の著者と表題と頁を特定する。

1文字でも間違えると検索できないので、細心の注意を払って書き写す。

こまかいテクニックなど

雑誌の巻号・頁に関して

- 「巻」「号」「頁」「vol.」「no.」「p.」などは省略して 19 (4): 432–451 などのように書いてよい
- 1巻の中が何号にもわかれている場合で、頁が巻ごとの通し番号になっている場合は、号を省いてよい。

- 巻号が通し番号でつけられていて、それとは別に「月号」「春号」などの表示がある場合は、巻号の番号だけを載せる。

出版社に関して

- 出版社の代表者などの氏名は無視して、社名を載せる
- 「株式会社」「財団法人」「Inc.」「Co. Ltd.」などは省略する

著者以外の協力者（挿絵・解説・監修など）は省略してもよい。のせる場合は役割表示をつける（「挿絵＝安野 光雅」などのように）

その他

- アルファベットの大/小文字はデータベース上では同一の文字としてあつかわれるので、奥付などの記載を写す必要はない。当該言語のルールにしたがって適当に記述すればよい。
- 著者名や表題などで2ヶ国語以上の記載がある場合は、どちらか一方だけを採用すればよい。ただし雑誌表題に日本語名と英語名がある場合は、英語名を記述すると特定できないことがままあるので注意。
- 書名・雑誌名・論文名などの副題は省略してもよい。
- 雑誌名の冒頭の“The”は省略する。

さまざまな流儀

- 著者が複数の場合の区切り記号としては＋のほか、コンマ（,）やなかぐる（・）や読点がつかわれる
- 出版年を最後に置く流儀もある。
- 出版社のところにその会社の所在都市名を注記することもある
- 日本語か欧語かで書法をかえる流儀もある。
- p. は単数形なので、複数の頁をさす場合は pp. と書くのが伝統的なやりかたである。
- 理系の分野では、論文名は省略する流儀のところがおおい。その場合でも論文著者名は省略しないようである。
- 書名や雑誌名はイタリック、巻号はボールド（太字）などのように字体をかえて書誌情報を区別する流儀もある。